町長コラム

町長室からこんにちは No.48

一宮町長
馬淵 昌也

新型コロナウイルス感染症が蔓延してから、「stay home」のスローガンとともに、自宅中心で過ごすことが、提唱されました。仕事についても、できる限り「テレワーク（遠隔地での労働）」を取り入れて、通勤せず、自宅での仕事に切り替えるように、呼びかけられました。

現在、コロナウイルス感染者の増加は、比較的緩慢で、徐々に日常的活動へと戻りつつあります。しかし、「新しい生活様式」に象徴されるように、これからは、コロナウイルスなどの感染症に気をつけながら暮らすことが必要になる、といわれています。

こうした中で、私が改めて感じたのは、一宮町のような田舎の暮らしの快適さです。

自宅で過ごす、といっても、都会では、比較的狭い集合住宅が多く、庭もなく、公園も少なく、外出して気散じをすることもままなりません。しかし、田舎は家が広めで、庭付きが多いので、屋外アクティビティを行うことが可能です。集合住宅に住んでいても、間取りに余裕があり、外には、田んぼや里山や海岸などの広大な自然環境があります。同じ自宅周辺で過ごすといっても、都会と田舎では大きく違います。田舎のほうが、はるかにのびのびできるのです。

また、田舎では、食糧などの調達に困ることも少なくてすみます。自らが生産者でなくても、地元でかなり容易に、新鮮・安価で、美味な農産物を味わうことができます。一宮の場合は、海産物も加わります。都会のように、流通が滞ることにより、品薄が生じ、価格も高騰して入手に手間取るということはありません。

映画館をはじめ、田舎に無いものはたくさんありますが、コロナ禍の中でこうした田舎の生活の素晴らしさが、再認識されました。

そして、テレワークで仕事ができるのであれば、田舎に住んでいても、差し支えはありません。一宮に即していえば、1時間から1時間半で東京まで行けるので、出社の必要が出た時も困りません。

政府も、今後の国の政策として、今回のコロナ経験をふまえて、国民の地方への生活拠点移動を促す政策をとるそうです。このチャンスを逃さず、一宮町も、田舎の魅力を力強く発信して、新たな移住者を大勢お迎えできるようにしたいと思います。